

## 第29回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザーボード 議事要旨

1 日 時：令和元年6月21日（金）10：00～12：00

2 場 所：総務省1階共用会議室4  
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

◎黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）

○戸谷 好秀（独立行政法人統計センター特別参与）

兼川 真紀（弁護士）

亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）

齋藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

相馬 清貴 官房審議官

荒木 健司 管理室長

4 議事次第

- ・平成30年度平和祈念展示資料館の運営業務実施結果について
- ・令和元年度平和祈念展示資料館の運営業務実施計画について

5 議事要旨

- ・平成30年度平和祈念展示資料館の運営業務実施結果について  
委託業者から説明後、意見交換が行われた。
- ・令和元年度平和祈念展示資料館の運営業務実施計画について  
委託業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 戦争の記憶が風化していく中、展示資料によって現在とのつながりを感じられたり、過去に遡って記憶をたどることができるような資料の見せ方などを工夫するとよいだろう。
- リピーターを確保するためには、常設展示資料の入れ替えや、企画展を工夫していくとともに、単に資料を見せるだけではなく、興味を抱かせるような展示の仕方、説明の仕方が大切になるのではないかと。

- 企画展などで特定の人物を取り上げる場合は、本人の経歴だけでなく人柄なども紹介し、また来館したいと思うような展示をしていただきたい。
- 資料館は新宿という立地から、地域からのバックアップが難しいので、地方での展示会などの来場者も資料館の利用者であると広くとらえて、活動のあり方などを説明していくと外部には理解してもらえないのではないか。
- 引揚港は日本全国にあるが、地元でもあまり知られていないなど風化しつつある。引揚港のあった地域で巡回展を開催すると、よい機会となるのではないか。
- 中学生を語り部として育成し、成功しているところがある。語り部の方が高齢になっているので、次の世代の語り部について検討していただきたい。
- 小学校へのチラシ配布では効果は限定的なので、教員向けの研修会の一環として来館してもらうなど教員への働きかけを行うと、校外学習などで利用してもらえるのではないか。
- 今年度末に公開するデジタルアーカイブの活用法として、教科書に沿って画像や関連資料などの情報をまとめ、授業で使ってもらえるような仕組みを作っていくと、教員なども利用しやすくなるだろう。
- 音声ガイドの貸し出しが倍になっているが、Wi-Fiを整備してスマートフォンで音声ガイドを聞けるように計画するとよいのではないか。
- いわゆるインフルエンサーの活用など、若者に向けた新たな形の広報展開を考えていただきたい。

（ 本議事要旨は、総務省大臣官房総務課管理室において作成した。  
速報版であり、今後、修正する場合がある。 ）